平成 25 年 10 月 29 日

各　　位

会 社 名　　株式会社ＭｏｎｏｔａＲＯ
代表者名　　代表執行役社長　鈴木　雅哉
（コード番号：3064　東証一部）
問合せ先　　執行役管理部長　田中　秀和
電話番号　　（０６）４８６９－７１９０

業績予想の修正および特別利益、特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成 25 年１月 29 日に公表しました平成 25 年 12 月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、平成 25 年 12 月期において、特別利益、特別損失を計上することとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

１．業績予想の修正について

（１）平成 25 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 25 年１月１日～平成 25 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	35,333	4,046	4,046	2,407	39.69
今回修正予想（B）	34,104	3,768	3,789	2,253	37.15
増減額（B－A）	△1,229	△278	△256	△153	－
増減率（％）	△3.5	△6.9	△6.3	△6.4	－
＜ご参考＞前期実績（平成 24 年 12 月期）	28,742	2,925	2,941	1,689	28.20

（注）当社は、平成 25 年４月 23 日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を実施しており、１株当たり当期純利益の金額は、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

（２）業績予想修正の理由

平成 25 年 12 月期におけるわが国経済は、政府の経済政策により、景気回復の動きがみられ、大企業、輸出企業を中心に堅調な業績となっておりますが、当社の中心的な顧客である大方の中小製造業においては、この景況感を実感できるところまで回復するには至っていないのが現状と言えます。

こうした状況のなか、当社業績は、新規顧客の獲得が好調に推移し、売上高を伸ばしてはいるものの、中小製造業を中心とした既存顧客の需要が回復に至らず、想定以上に低調なことから、売上高は、前回発表予想を若干下回る見込みとなりました。

利益面につきましても、売上高の当初予想比減少により営業利益、経常利益とも前回発表予想を若干下回る見込みとなりました。このような状況の中で、販売費および一般管理費の削減を図る一方、販売促進費についてのみは将来への成長を確かなものにするために新規顧客の獲得、既存顧客へのプロモーションへの投資として積極的な姿勢を継続しました。なお、当期純利益は、前述の営業利益、経常利益の当初予想比減少と下記「２．特別利益、特別損失の計上」のとおり、これの影響もあり、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

なお、上表の「今回修正予想（B)」の数値には、本日発表しております「海外事業展開に関するお知らせ」の「１．米国における事業展開」に記載しました、本年度のサービス料収入見込額 80 百万円を盛り込んでおります。

２．特別利益、特別損失の計上

平成 25 年８月 16 日付「当社販売商品に関連した自主回収処置について」においてお知らせしましたとおり、当社が台湾製造業者から輸入し国内で販売しておりました自動車用ブレーキパッド部品の一部に、「労働安全衛生法等」で定められた基準値を超える石綿が混入している可能性があることが判明し、現在、これの自主回収を行っているところであります。

これに伴い発生する回収・交換等の費用や在庫処分に係る損失、その他本件に関連する費用について、当第３四半期決算において発生した費用・損失に加え、将来発生する可能性がある費用・損失も見込み 218 百万円を特別損失として計上しております。

また、本件自動車用ブレーキパッド部品の製造元である台湾製造業者から、製造責任の賠償金として 55 百万円が支払われることとなったため、これを特別利益として計上しております。

これにより、本件の純損失は 162 百万円となりました。

（注）上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以　上